H109 成人病検診時における個別禁煙指導の取り組み（第1報）

○ 古川 和美1, 川上 真以子1, 松本 泉美1, 大脇 多美代1, 広部 一彦1, 中村 正和2
1) 富士銀行大阪総合管理センター 2) 大阪がん予防検診センター

【はじめに】わが国ではまだ男性の喫煙率が50%を超えており、喫煙習慣において効果的に介入できる禁煙教育の開発が求められている。今回は、厚生省がん研究助成金「中村班」の一員として集団検診の場における個別禁煙指導の有効性を評価する目的で介入研究を開始したので、その研究改善点に付ける実施状況について報告する。

【対象】図1のごとく平成10年度に成人病検診を受診する40才以上の男性喫煙者全員(約1500名)で、インフォームドコンセントを得られた者を対象にした個別指導群と対照群に割り付けた。

割付方法は受診日毎のDAY ALLOCATION方式とした。

【方法】1) 前数次調査の実施 本研究に先立ち、前年度に成人病検診を受診した男性喫煙者331名(無記名で、禁煙関心、2) 禁煙支援のニーズ等についてアンケート調査を実施した。
2) 禁煙指導者トレーニング 中村らによって開発されたトレーニングプログラムを用い、下記のスケジュールで5名の看護職がトレーニングをうけた。

3) 介入方法（図2）両群ともベースライン調査と呼気CO濃度測定を実施し、指導群にはさらに尿中コニン濃度測定(半定量法)と禁煙関心度に合わせた個別禁煙指導(約15分)を行う。指導の結果、禁煙開始日の設定者は(図2)のごとく約3ヶ月後に全診療科の電話フォローアップを行う。対照群はリーフレットの配布のみを行うが、次年度の成人病検診時に個別禁煙指導を実施する。

4) 研究評価 6ヶ月後、1年後の時点で両群全員に喫煙状況についてのアンケート調査を実施する。禁煙群には呼気CO濃度および尿中コニン濃度測定、または第三者による常便検査の提出にて客観的に禁煙状態を確認する。また、中村班全体では指導者トレーニング前後における指導者の知識、スキル等の評価を実施する。

【結果及び考察】1) 前数次調査結果 1)関心度の調査では、無関心期24.8%、関心期1 63.1%、関心期2 8.5%、準備期3.6%であった。2)禁煙支援のニーズでは、「アドバイスを受けやす」の回答が11.0%であったことから、「自分に準拠するもの」と答えた者が88.3%と高かった。以上の結果より、対象者は少禁煙に関心はあるが禁煙支援は低い傾向であることが分かる。

2) 平成10年12月末までの実施状況
1) インフォームドコンセント
指導群では97.9%、対照群では98.5%と良好な応募率を得ている。

2) 禁煙群における禁煙開始日の設定率（図3）
途中経過であるが禁煙に対する関心度が高いほど禁煙開始日設定率は高くなっている。

以上、集団検診の場における全喫煙者を対象とした介入研究であるが、現在、行政所管・従業員の協力を得て順調に進行している。また、両群の特性を図1に示すように有意差は認めていない。今後症例を重ね、さらに検討を深めたい。

本研究の一部は平成9〜10年度厚生省がん研究助成金(9:中村班)の研究費を受託して実施した。ここに謝意を表する。

（表1）指導群・対照群の特性

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>指導群 (n=143)</th>
<th>対照群 (n=128)</th>
<th>p</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>年齢</td>
<td>mean±SD</td>
<td>mean±SD</td>
<td>n.s.</td>
</tr>
<tr>
<td>禁煙本数</td>
<td>23.4±10.4</td>
<td>24.9±10.6</td>
<td>n.s.</td>
</tr>
<tr>
<td>呼気CO濃度(ppm)</td>
<td>15.5±9.7</td>
<td>17.8±13.4</td>
<td>n.s.</td>
</tr>
<tr>
<td>尿中コニン濃度</td>
<td>4.3±2.3</td>
<td>—</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

*:レベル0〜14